

子どもの“やりたい”気持ちを摘まない保育（園長つぶやき）

この写真は、0、1歳児クラスのかぜ組が雨上がりにベランダで遊んでいる写真です。ベランダにできた水たまりを覗きに行き、そこから恐る恐る足をつけたり触ったりと、子どもたちは楽しんでいました。その後は、ベランダから園庭に子どもたちの気持ちはシフト。園庭の水たまりに興味を持ちだし、



ベランダだけではなく、遊びが広がっていくような形になりました。滑り台前の水たまりに集まり、みんなで何を確認しているのか分かりませんが、一緒になって眺めていたり、砂場の方まで足を延ばし、シートの上にある水たまりで遊んだり、それぞれの子どもが、自分なりに楽しんでいました。



様子を見ていると、何のためらいもなく遊ぶ子ども、滑りそうになることを楽しむ子ども、ペットボトルを持ち出し水を入れようとする子ども等々。こちらが用意したわけではない、目の前にある環境に子どもたちが自分で関わろうとする姿が、この活動でよく見る事ができたようです。ついつい、水にぬれる・泥で汚れる・片付けが大変と、遊びの状況によっては、制限をかけたり止めさせたりしますが、今回の活動では、とても満足感を得ることができたのではないかと思います。

これまでも何度も書いていますが“やりたい”ことがいつでも出来て、そしてそれが継続して出来る保育。私たちは、常日頃からこの思いを忘れることなく、子どもたちの遊び・活動が充実していくように工夫していかなければと思います。ちなみに、10の姿で言うと“思考力の芽生え（環境）”“自然との関わり・生命尊重（環境）”“数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚（環境）”などの芽生えにつながる活動内容だったのではないかと思います。

(R2・8・3)